

のみ。残業代（深夜労働・休日出勤手当含む）は全くつかない。

毎日の生活は、午前一時頃に帰宅することが多かった。疲れきっているので、少しの間ボーっとして、食事をとらずに就寝することが多かった。朝は五時頃に起きてシャワーを浴びて、食事はとらずに出勤する。

出勤後作業着に着替えて、六時には必ず作業を開始する。

退職金はなし

*約八八〇万円の時間外を請求した労働審判では三五〇万円の審判しか出なかつたので、六月下旬に本訴に移行し、

監督指導による賃金不払い残業の是正結果 (平成26年度)

全国の労働基準監督署が、平成26年4月から平成27年3月までの間に、定期監督及び申告に基づく監督等を行い、その是正を指導した結果、不払いになっていた割増賃金が支払われたもののうち、その支払額が1企業で合計100万円以上となった事案の状況を取りまとめました。

是正企業数 1329企業（前年度比88企業の減）

支払われた割増賃金合計額142億4576万円（同19億378万円の増）

対象労働者数20万3507人（同88627人の増）

その合計額は109億7010円で全体の77%
1企業での最高支払額は「14億1328万円」（電気機械器具製造業）

次いで「9億4430万円」（金融業）、「6億3321万円」（理美容業）
（厚生労働省のホームページから）

付加金と不法行為に基づく損害賠償も請求しました。

しかし、青年期から十四年六ヶ月、早朝から深夜まで働き詰めで、この期間に奪われた人生は戻らない。

在日バイタルチェック

八月五日、学働館・関

生にて南大阪平和人権連帯会議の主催で公演された劇団石（トル）のひとり芝居「在日バイタルチェック」を観ました。

芝居の舞台は、在日コ

リアン一世が通うティサールビスセンター「ミンドウレルレ（たんぼぼ）」です。

私の職場もデイサービスセンターなので、チラシを見た時からとても興味がありました。センターで誕生日を迎えた一人のハルモニが、これまでの人生を語る場所からストーリーが展開します。

濟州島出身のハルモニが日本へ来た時のこと、海女の出嫁をしながら必死に子育てをしてきたこと、子どもたちが差別を受け悔しい思いをしたこと、阪神教育闘争のこと、別れたまま会えないきょうだいのこと……。随所にパワフルな笑いを散りばめながらも、重い歴史が語られます。

出演者であるキムキ

ガンさんはハルモニの少女時代から現在、在日二世・三世であるセンターの職員達、そしてマツカーに至るまであらゆる役柄を見事に演じ分けておられました。また度々観客も芝居に巻き込まれます。ハルモニの役としてバイタルチェックをされたり、持ち物を芝居に使ったり、マツコリを注いで一緒に乾杯したり……。そして私も、マツコリも飲んでいないのに引っぱり出され一緒に踊ったのでした。

バイタルとは体温、脈拍、血圧などの「生きている証」で、それらを測定するバイタルチェック

はデイサービスセンターでは毎回なされるものですが、この芝居ではさらに生気、活力に満ちたさま、鼓動であるバイタルをハルモニの生きざまそのものになぞらえていました。壮絶な歴史をたくましく生き抜いてきたハルモニの生きざまは、歴史に学びそれを担って生きていくのかと問う、私自身に対するバイタルチェックだと感じました。



は二〇一三年一〇月の初演から各地で上演を重ねてこられ、今後も上演が続けられる予定ですので、機会があればお一人でも多くの方に観て頂きたいと思えます。

写真キャプション
劇中、観客を巻き込んだ撮影タイムがありました。ハラボジ役の男性は観客（全日建連帯労組組合員）です。

南労会支部 H